

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

年初からドル安・円高が続いてきたドル/円相場は、6月のEU離脱を決めた英国国民投票以降、何度か100円割れを見たものの、底抜けを回避してきました。

これは、年初からのドル下落幅が20円を超える大幅なものとなっているなか、根強い米国の利上げ観測と日銀による追加緩和期待が背景にあるものと思われます。

【ドル/円 週足】



この状況は当面変化がなく、年末年始に向けては100円～105円のレンジでの方向感のない動きが継続する可能性が高いでしょう。

しかし、ドルが下抜けするリスク徐々に高まっているように思われます。

米国の継続的な利上げは困難となりつつあり、日銀の追加緩和策も手詰まり感が露呈してきています。

また、米国の大統領選が、今後の為替市場の大きなテーマとなると思われ、トランプ氏が大統領となる可能性を残しているうちは、市場参加者の警戒感は強く、リスク回避通貨として円が買い進まれる可能性を否定できません。

相場の流れを見ても、一旦始まった円高や円安の波が1年程度で収束する例はほとんどなく、来年も今年の流れを引き継ぐ可能性が高いと考えられます。

ドル/円が下抜けしまった場合の目安としては、2011年の安値から2015年の高値の61.8%戻しである95円水準が考えられますが、90円程度までオーバーシュートしてしまうリスクも警戒してお

ドル/円相場のトレード戦略

く必要があるかもしれません。

■ 短期展望

先週は、米国の利上げ観測の高まりやドイツ銀行をめぐる懸念の沈静化を背景に一時104円台を回復しましたが、金曜日に発表された米国9月の雇用統計が予想を下回ったことから、103円割れまで反落して週を越えました。

しかし、週明けにはサウジ石油相や露プーチン大統領が原油生産抑制に前向きな発言をし、来月のOPEC総会にて供給制限で合意が得られる可能性が高まったことから、原油価格が上昇、これを受けてドルは再び104円近辺まで切り返してきています。

今週は、ドルの底堅い動きが継続するものと思われませんが、9月2日の高値104円32銭をクリアに上抜けることが出来るかがポイントとなります。

この水準を上抜けることが出来れば105円が視野に入ってくるとともに、100円割れのリスクが大きく後退することとなります。

しかし、上抜けに失敗すると再び100円～104円でのレンジ相場が継続することになり、年末に向けて100円割れの可能性が高まることになるでしょう。